

平成26年度 全国保健師長会活動方針

少子高齢化、長引く経済の低迷及び正規雇用の減少、核家族化や一人世帯の増加など地域保健を取り巻く環境が大きく変化する中、健康寿命の延伸、健康格差の縮小の実現などが大きな課題となっています。一方、行財政改革や市町村合併、市町村への権限移譲の促進により、地域保健の基盤となる組織体制も大きく変容し、これまでと同様な行政サービスでは多様化・高度化する住民ニーズに対応することが困難な状況となっています。

このようななか、平成25年3月「地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書」が出され、さらに4月に「地域における保健師の保健活動に関する指針」が改正されるなど、地域に向き合う活動が求められています。

新たな時代に求められる保健師の保健活動の方向性として、「地区担当の推進」「部署横断的な保健活動の連携及び協働」「統括的な役割を担う保健師の位置づけの明確化」などに取り組む必要があります。

さらに、東日本大震災の支援では、被災者の命と健康を守る息の長い支援を継続的に行うとともに、被災地の保健師がこれまでの活動を振り返り、「保健師活動の軌跡」をまとめることへの支援をしていきます。

これからの保健師活動には、多岐にわたる専門的能力の充実が今まで以上に求められており、そのためには、保健師基礎教育課程の充実や現任教育として、ともに育ちあう職場風土を醸成することが重要です。

全国保健師長会は、健康寿命の延伸や健康格差の縮小など新たな時代に求められる保健師活動を視野に入れながら、理論と実践をつなぎ、標準化、可視化が図れるよう、各ブロックの研修や研究的な取り組みを推進していきます。そして、生き生きと活力ある保健師活動を目指し、次世代を担う若い保健師の成長を支援しながら、つながりを強化する基礎を築いていきます。

平成26年度全国保健師長会活動テーマ

“社会の課題に向き合う保健師活動の展開”

— 公衆衛生看護活動の原点に立ち返り、命と健康と生活を守る活動を目指し—

- 1 保健師の地域保健福祉分野における専門性を確立する
 - ・地区担当制を推進し、地域に責任を持つ体制を強化していくための具体的な方策について検討する
 - ・地域の課題解決に向けたソーシャルキャピタルの醸成及び活用を検討する
 - ・保健師活動指針を受けて、各自治体の特性に応じた指針の作成を支援する
 - ・保健師の現任教育の充実や保健師学生の臨地実習の充実に向けた取組みを推進する
- 2 ブロック、支部活動の強化
 - ・健康寿命の延伸・健康格差の縮小、地区担当制の推進等への取り組みなど、各ブロックでテーマを決め、情報交換・研修・報告会を活発に行い、自主的な活動を推進する
 - ・会員以外の若手保健師との積極的な意見交換・交流を行う
- 3 息の長い被災地支援を実施
 - ・被災地の保健師活動を振り返り、「保健師活動の軌跡」をまとめる支援を行う
 - ・東日本大震災の被災地へ息の長い支援を行っていく
- 4 会員数の拡大
 - ・リーダー的立場の保健師の入会を増やす。特に市町村への働きかけを強化する